

B-112 体形およびシルエット計測に関する基礎的研究 (第2報) 特性曲線の性格
 実践女大家政 ○平岡和香子 共立女短大 関山和世 綾田雅子 吉田悦子
 福知山淑徳高校 菊藤法 共立女短大 山口正隆

目的 人体や衣服シルエットの外形は複雑であるが、測定法によってはその死角はそれほど多くはない。そこで平行光線の投子角およびこれらの像の撮影角を適当にすれば図学的表現は容易と考えられる。そのためにはこれらの関係も熟知しておく必要がある。

方法 第1報の a_ϕ の性格も、 θ, ϕ を定め、 t, l の関数として測定条件を検討できる関係も求めた。すなわち輪郭の死角ができないよう $\theta + \phi$ の組合せが $\pi/3, \pi/2, 3\pi/4$ および ϕ の組合せが $\pi/3, \pi/4, \pi/6$ として体形全体を数方向から測定することによって、図学的表示が可能なるように考える。

人間の姿勢は上下左右を自由に変わらねないから測定条件を考慮する必要がある。このため反転撮影用ミラーを使用し輪郭誤差を少なくするために遠距離から望遠レンズを用いて撮影した。

結果 右図は $\theta + \phi = \pi/2$ 群; $= \pi/3$ 群; $= 3\pi/4$ 群にそれぞれわけ、その中の各々について $\phi = \pi/6$; $= \pi/4$; $= \pi/3$ の特性値を求めたものである。

